

榎本秋プロデュース ストーリー発想力がぐんぐん身につく創作ゼミ

【今日の課題】

主人公の前に立ちふさがる「悪人」「敵役」「障害」として以下からひとつ選んで、これをきっかけにした物語を作ってみましょう。

- 1 その国で一番強い戦士
- 2 山ほども大きい怪獣
- 3 ものすごい借金の返済
- 4 難関大学の受験
- 5 一国の王子（王女）を口説く

【選択したお題】「難関大学の受験」

高校生の一樹は将来の夢も希望も持たない落ちこぼれ。教師と揉め事を起こした際に唯一庇ってくれた同級生・由佳に淡い恋心を抱く。読書家の彼女と接点を持つため、放課後は図書館に通い苦手な読書に勤しむ日々。

なんとか由佳の友人になるが、彼女が国内最難関といわれる T 大を目指していると知る。このままでは由佳が手の届かない場所に行ってしまうと焦った一樹は「T 大を目指す」と宣言し周囲の嘲笑を誘う。現に一樹の成績では合格など不可能だった。

一樹は猛勉強を始めるが、遅れをなかなか取り戻せず模試では E 判定が続く。諦めそうになるが、由佳からひとつの科目に固執しないよう助言を受ける。また、読書によって得た知識や集中力も勉強に役立ち、成績が上がっていく。

迎えた受験。一步及ばず、一樹の T 大合格は叶わなかった。しかし一樹の不可能に挑む姿に感銘を受けた由佳から告白される。努力は決して無駄じゃなかった、と満足する一樹だった。

●個別講評

「頑張ったけれど合格は無理だった」というオチにすることでご都合主義にならず、「ただし別のゴールに辿りついた」によってカタルシス面でのフォローもできています。由佳の「ひとつの科目に固執しないように」という助言がやや抽象的に思えるので、作中では具体的にできると良いでしょう。

●全体講評

障害と解決に加えて今回改めて考えていただきたいことは、「その主人公には何ができるか？」という点です。たとえば借金があって、普通に働いて返済した、では解決できていてもエンタメとして面白みがないですし、「働ける主人公」なら誰でも良いということになってしまいます。そうではなくて、その主人公にしかできないことで借金を返す（目

的を果たす) 必要があるわけです。もちろん、主人公が何でもできる完璧超人だとそれはそれで現実味がないので、時には失敗したり、仲間に助けてもらったりした方が良いでしょう。

あなたの作品の主人公は、何ができて、何ができないのでしょうか。できないことをサポートしてくれる仲間はあるのでしょうか。あるいは、何か別の方法で障害をクリアするのでしょうか。そして、なぜその大いなる目的（多額の借金を返済する、難関大学に受験する etc. ）を達成したいのでしょうか。その部分にも言及してみると、物語に深みが出ますよ。